



公明党
あらたに隆見

市民サービス向上で誰もが笑顔になる施策の創造を！

◇10年先を見据えた取組みを

- 問 新たに取組む総合計画は、公明党の提案で実現した小学校の屋内プール指導のように、多くの方に喜んでもらえる施策がどんどん出るような計画になってもらいたい。今回の総合計画策定の業務委託先の選定時のDX(デジタルトランスフォーメーション)等の専門性についての考えを伺う。
- 答 10年先を見据えて環境共生都市や健幸まちづくり、DXの取組みなどの事業者の知見を見ながら選定していく。
- 問 DXの推進体制やAIの活用、情報発信などの専門的なスキルを要する人材育成の取組みを伺う。
- 答 若手職員の発想も取入れ、一般的な知識・推進していく知識・新技術の運営などの専門的な知識などを、職層や業務に応じたスキルUPを行う。

◇サービス充実への働き方改革を

- 問 地域コミュニティの力を醸成するための地域協創において行政が担う役割を伺う。
- 答 地域をつなぐ・支える・人材を掘り起こす役割を担い地域担当職員を配置する予定。
- 問 地域の取組みは土日や夜行われる。地域担当職員が力を発揮するには勤務体制の検討が必要。この取組みは市民ニーズに合わせた職員の働き方や、新たに建てる本庁舎の規模や機能に大きな影響が出る。まずは庁内の業務について仕分を行い、市民ニーズに応えられる働き方改革を進めるべきではないか。
- 答 本庁舎の建替えを一つのターニングポイントと捉えるがそれまでに業務の精査をし、日々の改善をしていく。



フェアな市政
岩永ひさか

3期12年間の経験を活かしたリーダーシップを！

◇未来につながる地域づくりを

- 問 50年後を見据えた市政運営に向けた現状の課題と解決策、特に地域社会の在りようをどう描いているのか伺う。
- 答 人口構成や社会環境の変化、市民の価値観の多様化、デジタル技術の伸展、気候変動や感染症など、従来の手法では解決しきれない課題の多い「正解のない時代」に突入していると考え。また、地域社会についても、自治会や既存の組織などの担い手だけで対応することが困難になっており、これまで以上に新たな自助・共助・互助・公助がうまく循環していく仕組みを作らねばならない。そのために地域資源を活用し、地域の人材を発掘し、コーディネートを担う「地域担当職員」の配置に取り組んでいく。

◇未来の地球を考えたまちに

- 問 「環境共生型都市」をめざすためには、新たな基本構想(長期ビジョン)づくりに「ワンヘルス」を意識し、今後、開園をめざす「農業公園」は環境保全型農業を基調とした、アグロエコロジーを学べる場にしてほしい。また、ニュータウン再生、新たなまちづくりの視点に「自転車文化」を位置付けることは面白いと思うが見解を伺う。
- 答 気候変動、地球環境問題への取組みは最重要事項と考える。ワンヘルス、アグロエコロジーの視点は大事な視点であり、意識していきたい。また、環境配慮と健康増進の点からも「自転車文化」には着目をしてみたい。



ネット・社民の会
岩崎みなこ

市民の暮らしを守るために

◇守るべき地球環境とは

- 問 連光寺に整備中の農業公園は、連光寺・若葉台里山保全地域の中にある。そのため、環境保全型農地であるべきである。同時に、「市」「東京都」「守る会の市民」を含めた定期的な情報共有の枠組みを設置できないか。
- 答 環境部と農政の所管で連携し取組みを進める。市民を含めた枠組みは設置する。
- 問 本市は議会と共同で気候非常事態宣言を出した。気候変動対策のひとつにプール授業の外部委託があるが、年に5時間さえも、屋外の学校のプールに入れない程、異常な気候だと、子どもたちにしっかりと伝えるべきだ。その上で解除するにはどうしたらいいかを、学校は教育していくことが必要ではないか。
- 答 子どもたちには、宣言が出ていることは、伝えてい

る。環境についてはSDGsの「気候変動に具体的な対策を」の達成に向けた学びをESDの中で実施する。

◇守るべき子どもの権利とは

- 問 4月施行の「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」について相談体制、救済制度といった仕組みづくりと同時に、子ども自らが話しやすいような働きかけが必要である。例えば、話したら「告げ口になる」と思わないように「相談」と「告げ口」は違うなど、分かりやすく伝えるべきではないか。
- 答 そうした取組みは重要との認識だ。相談のハードルを下げる具体的な取組みを、子どもの視点で考えていきたい。